

建設 ながの

(一社)長野市建設業協会
長野県建設業協会長野支部

広 報 誌

9

2026
(令和8年)
No. 239



大法寺 国宝三重塔 (青木村)

8月下旬、小県郡青木村の大法寺を訪れて撮影した国宝・三重塔です。「見返りの塔」と称される均整の取れた美しい姿が、晩夏の青空と深い緑の中に際立っていました。こけら葺きの優美な屋根の反りや、歴史を感じる木肌の質感に強い存在感があります。周囲の山並みと木漏れ日が織りなす静謐な空気に包まれ、思わず足を止めて見惚れてしまう瞬間を写真に収めました。

(中島 麻希)

目 次

2. ■ インフレスライドの積極活用等

長野市建協が荻原市長に要望

■ 委員会活動がスタート

3. ■ 委員会・部会委員名簿

4. ■ 長工高生がICT技術の活用など学ぶ

■ 長野火薬類保安協会が総会

■ 長野市道路舗装協会が総会

5. ■ 「地域の安全・安心を守る」

長野市危機管理防災監 神保 信希

6. ■ 「バレーボールが変えた日常」

川浦土建(株)建築部次長 平野 健治

7. ■ 「松代城花の丸御殿について」

松代文化施設等管理事務所研究員 山中 さゆり

8. ■ 協会日誌 ■ 会員動静

インフレスライドの積極活用等を市長に要望



長野市建設業協会の正副会長は7月14日に長野市役所を訪れ、「公共事業予算の確保」「建設業担い手不足の改善に向けた『長野市モデル』の構築」「最低制限価格の見直し」「建設DXの推進」「インフレスライド条項の積極的な適用」の5項目を荻原健司市長に要望した＝写真。荻原市長は「人手不足など深刻な問題がある中、国スポ・全障スポ開催に向けて日程が決まっているスポーツ施設の改修などでは、現場を担う皆さんの協力に感謝している。現場の声となる要望を踏まえ、どのような対応ができるか考えていく」との姿勢を示した。

川浦俊樹会長は「建設業は地域インフラの維持管理や災害時の『地域の守り手』として重要な役割を担っているが、人手不足や技能者の高齢化、人件費・資材価格の高騰など多くの課題を抱えている。実情を理解いただき、業界の発展につながる支援をお願いしたい」と求めた。

要望では、防災・減災や公共施設の長寿命化に向けた公共事業予算の継続的な確保をはじめ、市立長野高校を拠点に高校生が建設業の魅力や最新技術に触れられる「長野市モデル」の構築を提案。小中学校のキャリア教育への協力について、協力できる会員の名簿を市に提出するなど、継続して地域への人材定着につなげたい考えを示した。

人件費や資材価格の上昇を踏まえ、最低制限価格算定方式の見直しや、電子契約・電子保証の導入など建設DXの推進を要請。資材価格の急激な変動に対応する「インフレスライド条項」についても、受注者の事務負担軽減や資金繰り改善につながるとして積極的な適用を求めた。

市財政部の原敏博部長は、電子契約・電子保証について来年度中の導入開始を目指して準備を進めると説明。最低制限価格の見直しについては、「落札率は他の自治体に比べ低い、最低制限価格の平均率は県内で高い水準にある。適正な価格転換を意識しながら、工事品質確保の観点から適切に運用していく」と理解を求めた。

市建設部の轟誠部長は、インフレスライド条項について「国や県に準じて条項を適用している。今後も監督員との協議を通じて適切に対応していく」と答え、教育委員会も建設業協会と連携し、小中学校での職場体験や市立長野高校でのキャリア教育の充実を図る考えがあったとした。

要望には、市議会の若林祥議長、箱山正一、西脇かおるの各市議が同席。「資材価格の対応については、実情に追いつける対応をしてほしい」などと市の担当者に注文した。

◇委員会活動がスタート 県建設業協会長野支部と長野市建設業協会は7月9日、新旧役員・合同委員会を開催し、委員会、部会が活動を開始した。鹿熊聡支部長と川浦俊樹会長は「委員会、部会は協会活動の中心となる。互いに理解を深め、楽しく充実した活動の場となるよう良いスタートを切ってほしい」と呼びかけた。



委嘱状を手にする委員長と部会長

地域を支える技術者集団

長野県土木施工管理技士会
長野支部

長野市岡田町124-1 長水建設会館内
TEL 026-227-6226 FAX 026-228-6231

長野県建設業協会長野支部・(一社)長野市建設業協会委員会名簿

総務委員会

役職名	氏名	会社名	会社の役職名
担当副委員長	小山田雄治	(株)小山田組	社長
委員長	高木亜矢子	高木建設(株)	社長
副委員長	川浦正博	川浦土建(株)	専務
〃	田中章	更水建設工業(株)	社長
〃	美谷島弘幸	日本総合建設(株)	取締役
〃	藤森将一	藤森建設工業(株)	会長
委員	保科正徳	朝日鋪道(株)	社長
〃	小池毅夫	(株)小池組	社長
〃	清水満	信州林業(株)	社長
〃	大久保健	総合地質コンサルタント(株)	社長
〃	田中秀幸	(株)田中光男商会	社長
〃	片桐正博	長電建設(株)	取締役
〃	山森香	長野二チレキ(株)	社長
〃	塩入広崇	(株)日拓	社長
〃	野澤敏	北信土建(株)	社長
〃	村松直敏	村松建設(株)	専務

土木委員会

役職名	氏名	会社名	会社の役職名
担当副委員長	原山大輔	(株)喜久屋商会	社長
委員長	井上善行	(株)大松建設	社長
副委員長	上條聡	(株)小山田組	常務
〃	小島泰輔	(株)鹿熊組	工事所長
〃	斉藤俊洋	川浦土建(株)	取締役
〃	駒津信太郎	(株)川瀬工務店	取締役
〃	横田和之	川中島建設(株)	部長
〃	倉澤良幸	北野建設(株)	統括次長
〃	北澤宏充	(株)キッツワーク	社長
〃	木内厚志	(株)小池組	取締役
〃	黒岩達也	高木建設(株)	次長
〃	小山田真也	(株)中村組	社長
〃	岸田勇二	日本総合建設(株)	部長
〃	堀内圭一	北信土建(株)	次長
〃	小山雄作	松代建設工業(株)	課長
〃	緑川洋志	(株)守谷商会	次長
〃	山口卓也	(株)山倉建設	常務
委員	楠茂夫	(株)アスベック	社長
〃	和泉孝	飯島建設(株)	部長代理
〃	清水良一	岩澤建設(株)長野支店	支店長
〃	中村慶胤	久米路建設(株)	専務
〃	小山正彦	信濃酒井建設(株)	常務
〃	外谷豊	(有)外谷建設	社長
〃	山上卓秀	(株)日拓	会長
〃	高橋義如	間堀建設(株)	取締役
〃	丸山慶大	(株)丸山組	取締役
〃	勝川徹	(株)三谷組	部長

建築委員会

役職名	氏名	会社名	会社の役職名
担当副委員長	徳武信行	(株)ナガノ建築サービス	社長
委員長	服田豊	(株)服田建設	社長
副委員長	村上照明	飯島建設(株)	常務
〃	平野健治	川浦土建(株)	次長
〃	長谷川暁	北野建設(株)	課長
〃	野本大介	共和建設(株)	社長
〃	池田友和	高木建設(株)	次長
〃	野澤祥廣	千広建設(株)	社長

〃	高橋賢郎	野村建設(株)	部長
〃	町田育哉	北信土建(株)	次長
〃	湯本宜成	松代建設工業(株)	社長
〃	畑謙司	(株)守谷商会	次長
委員	鹿熊崇	(株)鹿熊組	常務
〃	小林知史	更北建設(株)	専務
〃	小山正晃	小山木材(株)	社長
〃	中村彰博	匠建設(株)	社長
〃	村井雄稀	埴科建設(株)	専務
〃	北條將隆	(株)北條組	社長
〃	宮尾勇二	宮尾建設(株)	社長

広報委員会

役職名	氏名	会社名	会社の役職名
担当副委員長	小山田雄治	(株)小山田組	社長
委員長	柳沢昌宏	(有)柳沢土建	社長
副委員長	北澤明義	(株)大久保組	社長
〃	小林和雄	共進建設(株)	社長
〃	青木信広	大同建設(株)	取締役
〃	中井誠	(株)デベロッパ・しなの	社長
〃	相澤豪	長野機材(株)	社長
〃	丸田泰	(株)日拓	取締役
〃	西芳幸	(有)峯村建設	取締役
〃	和田明人	(株)山倉建設	社長
〃	竹内幸利	RINKASA(株)	社長
〃	和田幸文	(株)和田組	社長
〃	和田浩行	(株)和田興業	社長

青年部会

役職名	氏名	会社名	会社の役職名
担当副部長	原山大輔	(株)喜久屋商会	社長
副部長	野村和正	野村建設(株)	社長
〃	小山明彦	(株)小山田組	常務
〃	鹿熊崇	(株)鹿熊組	常務
〃	川浦正博	川浦土建(株)	専務
〃	北澤宏充	(株)キッツワーク	社長
〃	中村慶胤	久米路建設(株)	専務
〃	小林知史	更北建設(株)	専務
〃	外谷豊	(有)外谷建設	社長
〃	小山田真也	(株)中村組	社長
〃	塩入広崇	(株)日拓	社長
〃	美谷島弘幸	日本総合建設(株)	取締役
〃	村井雄稀	埴科建設(株)	専務
〃	丸山慶大	(株)丸山組	取締役
〃	山口卓也	(株)山倉建設	常務

女性部会

役職名	氏名	会社名	会社の役職名
担当副部長	徳武信行	(株)ナガノ建築サービス	社長
副部長	吉村亜美	飯島建設(株)	課長
〃	松本ゆり	(株)鹿熊組	主任
〃	上原蓉子	川中島建設(株)	課長
〃	石谷真耶	北野建設(株)	主任
〃	小野塚光子	高木建設(株)	主任
〃	池田純子	(有)外谷建設	専務
〃	笠原和恵	松代建設工業(株)	
〃	中沢瑞希	(株)守谷商会	

長工高生がICT技術の活用など学ぶ

長野工業高校は8月24日、同校と県長野建設事務所が裾花川河川敷にウォーキングロードを整備する「建設技術実践プロジェクト」の一環として、県建設業協会長野支部による土木現場見学会を開催した。同プロジェクトで施工班を担当する生徒10人が参加して建設業への理解を深めた。

見学現場は、2019年の台風19号で被害を受けた長野市長沼地区で建設中の「長沼地区防災ステーション基盤整備その3工事」で、発注者は北陸地方整備局千曲川河川事務所、施工は鹿熊組が担当。各作業にはICT技術が活用され、生徒は、ドローンを使った起工測量や、点群情報から作る3次元設計データの生成をはじめ、設計データを基に1cm単位で掘削できるバックホウのマシンガイダンス、設定に沿って地面を均すブルドーザーのマシンコントロールなどについて説明を受けた。さらに、バックホウの遠隔操縦シミュレーションやド



ローンの操縦、重機への乗車を体験した＝写真。

県長野建設事務所整備課整備第二係の忠地孝係長は「この経験を通して建設業により興味を持ってもらい、プロジェクトの施工から将来の仕事にも役立ててほしい」と呼びかけた。県建設業協会長野支部の小山田雄治副支部長は「ICT技術が進み、働き方も変わってきている。その現状を学んでもらい、これからの建設業の力になってほしい」と期待を寄せた。

法令順守と保安を強化

長野火薬類保安協会 小山田会長を再任



長野火薬類保安協会は7月2日、長水建設会館で第68回通常総会を開催。任期満了に伴い6月3日に開催した役員会で、会長に県建設業協会長野支部副支部長の小山田雄治氏を再任、副会長に森川修一氏、原山大輔氏を新任したことを報告した。

小山田会長は「昨年は、火薬類による死亡事故はなかったが、被災者数は一昨年を大きく上回っ

た。長野地域における火薬類に係る協会として、事故と災害の未然防止の観点から、より一層の法令順守と保安の確保、安全対策の強化に努めていかなければならない」と呼びかけた＝写真。

資材高騰への対応を推進 長野市道路舗装協会総会

長野市内で舗装機械を所有する建設業者20社で組織する長野市道路舗装協会は7月23日、長野市内のホテルで定時総会を開き、2025年度事業・決算報告、26年度事業計画などを承認した。



本年度は、市発注のアスファルト舗装工事などの入札制度に関する要望・提言をはじめ、舗装技術の向上に向けた研修、災害発生時の復旧支援などを重点事業として取り組む。

川浦二三郎会長は「これからも会員や舗装業界のためになる活動を展開していく」とあいさつした＝写真。

そして、街はメディアになる。

 **矢木コーポレーション** 塗装

長野市真島町川合2036番地 Tel:026-283-7000
Mail:yag@yagicompany.jp

地域の安全・安心を守る



長野市危機管理防災監
神保 信希

長野市建設業協会並びに長野県建設業協会長野支部の皆様には、日頃より本市防災行政に対し格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

災害時の迅速な対応、そして冬季の道路除雪業務など生活基盤を支えていただき、安全で安心な市民の生活の維持にご尽力をいただいておりますことに重ねて感謝を申し上げます。

このたび、長野市総務部危機管理防災監を拝命いたしました。どうぞ、よろしくお願いいたします。貴協会の「建設ながの」にご挨拶の機会をいただきましたことを大変光栄に感じ、一言ご挨拶申し上げます。

長野市は、千曲川や犀川をはじめとする複数の河川が市内を流れ、山岳地帯から盆地へと広がる複雑な地形を有しております。この豊かな自然環境は、市民の暮らしや産業を支える一方で、水害・土砂災害・地震・大雪など多様な自然災害のリスクと常に隣り合わせでもあります。特に令和元年東日本台風では、中山間地域での土砂災害、千曲川の越水や堤防の決壊などにより、大規模な浸水被害が発生しました。多くの市民が被災し、地域の生活基盤が大きく損なわれた経験を踏まえ、防災への取り組みをより一層強化しなければならぬとの強い使命感を感じております。

本市では、「市民の命と暮らしを守る」という防災の原点のもと、以下の取り組みを推進しております。

まず、「自分の命は自分で守る」という観点から、危険な場所から早めに避難していただくことです。令和元年東日本台風の教訓を踏まえ改訂した長野市地域防災計画に基づき、出前講座などを通して、ハザードマップにより、いる場所の危険性の確認や、「我が家の避難行動確認シート」「マイ・タイムライン」を活用した事前準備を推進しております。また、災害時に自ら避難することが困難な高齢者や障害者等の「避難行動要支援者の個別避難計画の作成」を進めることで、一人

ひとりが適切なタイミングで安全に避難できる体制の構築を進めております。

次に、「自分たちの地域は自分たちで守る」の観点から地域防災力の強化です。自助・共助・公助の連携を深め、自主防災組織との連携強化により、活動支援や防災訓練の充実を図ることで、今後も地域全体の防災意識と対応力を高めてまいります。

そして、「官民連携による強靱なまちづくり」です。大規模災害が発生した際、行政だけで全ての対応を完結させることは不可能です。迅速な応急復旧と市民生活の早期再建には、両協会の皆様のお力が不可欠であることは言うまでもありません。

長野市は昭和61年に、長野市建設業協会との間で「災害時における復旧協力に関する変更協定」を締結しており、道路・河川・水道等の応急復旧において多大なご尽力をいただいております。また令和4年には長野県建設業協会長野支部との間で「大規模災害時における応急対策業務への協力に関する協定」を締結し、連携体制を一層強化したところです。現在、長野市が締結している災害時応援協定は80件を超えており、その中でも建設業の皆様との連携は、地域防災の根幹を支える重要な柱であると認識しております。

両協会の皆様は、平時においては地域のインフラを支えていただき、また有事においては最前線で復旧作業にあたってくださいなど、長野市の防災体制に欠かすことのできない存在でございます。今後も防災訓練や情報共有を通じて連携を深め、いざというときに迅速かつ円滑に協力ができるよう、平時からの関係強化に努めてまいりたいと考えております。

近年、気候変動の影響により、全国各地で記録的な豪雨や大規模土砂災害が発生しており、自然災害の激甚化・頻発化が顕著となっています。長野市においても、この現実を受け止め、ハード・ソフト両面にわたる防災対策を着実に推進していかなければなりません。その実現のためには、行政と建設業界が一体となって取り組むことが重要であると思っております。

今後とも地域の安全・安心を守るため、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、長野市建設業協会並びに長野県建設業協会長野支部のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を心からお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



バレーボールが変えた日常

川浦土建(株)
建築部次長
平野 健治

我が家は夫婦ともに認める「野球大好き一家」である。私は学生時代、野球に打ち込み、奥さんはソフトボールの経験者。当然、我が子も自然とバットを握ってくれるものと、心の片隅で淡い期待を抱いていました。

まずはボールを打つ楽しさを知ってもらおうと、自分がゴルフの練習に行く際、子供も連れて行き、小学生用のゴルフクラブを持たせて打たせるも、本人はなかなか乗ってくれない。「無理強いはいけない、もう少し時期を待つか…」と悩んでいた小学2年生のある日、子供が突然、目を輝かせて言ったのです。

「私、バレーボールをやりたい!」と。

バッ、バレーボール…その一言に耳を疑い、それまで我が家で夢見ていた「ナイスボール!」の掛け声は、ここに来てまさかの素手でボールを繋ぐスポーツへと急旋回。しかし、子供が自ら見つけたことを否定するわけにはいかない。正直、最初は「どうせすぐに飽きてやめるだろう」と高をくくっていました。

しかし、子供の熱意は本物でした。宣言したすぐに、母親と一緒に地元のクラブチームが練習している体育館へアポイントなしで飛び込み、体験練習に参加させてもらい、わずか2回の体験を経て即入部。

勢いで入部したものの、当時はまだ2年生であり、週5回の練習中に眠くなってしまい、指導者の方からお迎えの連絡が入ることもありながらも練習に通い続ける我が子の眼差しは、いつでも真剣そのものでした。気づけば、私たち親のほうが子供の純粋な熱量に引っ張られ、圧倒されました。

自分が小学生だった頃、自分の親もきっと同じような気持ちで私を応援し、見守ってくれていたのだろう。そんな感慨に浸りながら、今では「今日のサーブは最高だったよ!」「次のレシーブは、もっと体の前で受けよう!」などと声をかけています。バレーボールに関しては全く素人の自分が、夢のバットを置き、気がつけば夫婦で一番の応援団になっており、今となっては、生活の中心にバレーボールがあるのが当たり前になっています。

クラブの仲間たちの輪に囲まれ日々成長していく我が子の姿を見ていると、自分のことのように嬉しくなり、そして何より、監督やコーチ、保護者の方々は仕事や家庭があるなかで、技術的な指導にとどまらず、子供たちの精神的な成長やチームワークの大切さまで、親では教えきれないことをスポーツを通じて根気強く教えてくれます。こうした方々の支えがなければ、子供たちが伸び伸びとスポーツを楽しむ環境は成り立たないと、改めて痛感する日々です。

振り返れば、私自身、様々な人と豊かな人間関係を築くことができていたのも、幼い頃からスポーツに取り組んできたおかげだと実感しており、スポーツを通じて学んだ「相手を尊重する姿勢」や「率直に意見を交わし合う大切さ」は、競技を離れた現在の社会生活、そして日々の仕事における人間関係においても、私の大きな財産であり、支えになっています。今後、子供にもスポーツを通じて仲間と協力することの尊さを学び、多様な人々と豊かな関係を築いていける大人に育ってほしいと願っています。

一方で、スポーツを取り巻く環境の安全確保も忘れてはいけません。令和8年5月に起きた部活動遠征時の痛ましい事故を受け、子供たちが安全にスポーツや文化活動に打ち込める環境を作り、未来ある子供たちの命を守るため、指導者・保護者・運営者が一体となって明確なルールを定め、徹底していくことが不可欠だと思います。

現実には、指導者の負担軽減や運営体制の確保など難しい面も多々ありますが、だからこそ現場の大人たちが今できる限りのサポートや工夫を凝らし、前向きに行動していくことが最善であると考えます。

最後に、子供たちがスポーツを通して経験する「勝つ喜び」「負ける悲しみ」、そして次へとつながる「悔しさ」。そうした豊かな感情のすべてを、チームの関係者の皆さんと共に分かち合える日々心から感謝し、子供たちから、日々たくさんのパワーをもらい、そのエネルギーを仕事の糧へと変え、私も社会人、父親として、負けじと頑張る所存です。

皆様も、もし機会があれば、ぜひお近くの地域でスポーツや文化活動に汗を流し、一生懸命に打ち込んでいる子供たちの姿を見ていただければ、そこにはきっと日々の疲れを吹き飛ばすような、純粋で力強い元気が溢れているはずだと思います。

松代城花の丸御殿について

松代文化施設等管理事務所
研究員 山中 さゆり

前回、松代城二の丸と花の丸について、そのあり方をご紹介しましたが、今回は本丸が使用されなくなり、花の丸御殿へその機能が完全に移るまでについて、もう少し詳しくご紹介します。

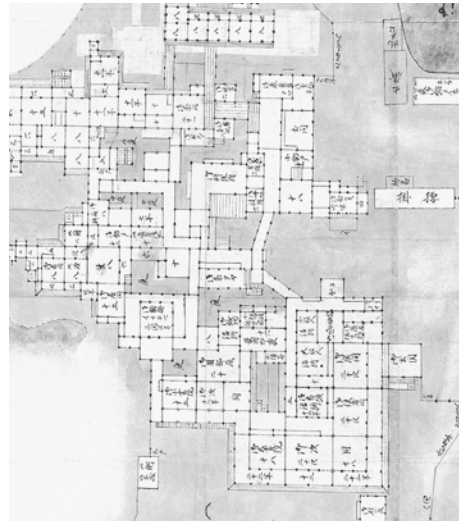
花の丸は、従来の研究では、もとは藩主の遊園の地であったとされていることは、すでに前回ご紹介しました。遊園の地、といえば、美しい庭園があり、その景色を愛でながらくつろげるような、ちょっとした建物や茶室などがある、というイメージです。しかし、松代藩の家老日記を詳しく調べていくと、少し異なる面が見えてきました。

真田家に伝来した日記の中で、最も古い時代からのものがあるのが家老日記で、1686（貞享3）年のものから、断続的に残存しています。このうち、1687（貞享4）年3月25日に、本丸の「橋台」、つまり本丸へ入るために内堀に架けた橋の台となる石垣が崩れたとあります。そしてその状態を絵図にして、幕府老中・大久保忠朝にうかがいをたて、指示を待っていることがわかります。江戸時代において、城の修復は幕府の許可が必要でしたから、この記述はそれを物語るものです。そしてこれが、家老日記に見える松代城についての一番古い記述です。

その翌年10月には、大御門前の「大手番所」近辺や「瓦倉」前などのほか、大御門前から「花丸御台所前」まで、道を作るよう担当者に申付けています。これが、花の丸に関する記述の最も古いものです。これにより、少なくとも花の丸に「御台所」があるような建物があることがわかります。つまり、単なる遊園の地ではなく、「御台所」が備わっているようなある程度の規模をもった建物が、すでにこの時点であったことがわかります。

1717（享保2）年2月29日に起こった、家臣・湯本源介宅が火元となった火事（湯本火事）では城内にも火が移り、本丸・花の丸・二の丸が残らず焼失したとあります。しかし、早くもこの年の8月12日には、本丸など他の建物に先んじて花の丸の普請を始めた記述があります。これが意味するところはよくわかりませんが、少なくとも、花の丸の建物の復旧が大事だったのでは、と思わ

花の丸御殿の絵図（部分）



れます。

前回ご紹介したように、4代藩主・信弘から5代藩主・信安の頃には、本丸と花の丸、そして二の丸のそれぞれに御殿があり、普請と破却を繰り返しながら、藩主家族がその時々に住居していました。特に、信安の頃は、表向きの主要な儀式は本丸御殿で行い、信安家族の居住は花の丸御殿、信安の異母兄弟等は二の丸御殿に居住、といったように使用されていたことがわかります。1752（宝暦2）年に、真田幸弘が13歳で6代藩主に就任した時、国元では、花の丸御殿を住居として使用していた藩主家族はおらず、幸弘が松代へ初入部を果たすまでの間に本丸御殿の普請が行われ、かわりに花の丸御殿が破却されています。すでに、信安の異母兄弟は江戸へ居宅を移していたため、二の丸御殿も無くなっています。そして1767（明和4）年ごろから、新たに花の丸御殿の建設が始まり、1770（明和7）年には、本丸御殿の機能がすべて花の丸御殿に移りました。

これは、従来言われていたように、城の北側を流れる千曲川の氾濫による度重なる水害も一つの理由ですがむしろ、藩庁機能と、藩主の居宅という両方を十分に備えるには、本丸がそもそも狭く、より広い建物を建てられる花の丸へ全面移転させた、と考えられます。

今回、家老日記の記述のみに絞って述べてきましたが、他の日記を見ていくことで、また違った花の丸御殿の様子がわかってくるかもしれません。現在真田宝物館で開催中の特別展「松代城花の丸—松代の御殿—」では、新出の資料も展示していますので、ご来館いただき、感想をお聞かせいただけると有難いです。

長野県建設業協会長野支部

- 7月 9日 △二団体合同委員会並びに新旧役員会
- 7月 13日 △総務委員会
- 7月 24日 △長野地区木造家屋等建築工事安全対策委員会総会
- 8月 4日 △総務委員会・長野工業高校との打合せ会
- 8月 6日 △長野地区木造家屋等建築工事安全対策委員会安全パトロール
- 8月 19日 △監理技術者講習会
- 8月 21日 △総務委員刈払機講習参加
- 8月 24日 △建設技術実践プロジェクト現場見学会

長野市建設業協会

- 7月 9日 △二団体合同委員会並びに新旧役員会
- 7月 14日 △市長要望
- 7月 15日 △建築委員会
- 7月 27日 △広報委員会
- 7月 30日 △土木委員会（長野市契約課・検査課との意見交換会）
- 8月 26日 △建築委員会（長野市建築課との意見交換会）

関連団体

- 7月 2日 火 薬：△通常総会
- 7月 3日 建災防：△安全指導者会
- 7月 6日 長住協：△信州健康ゼロエネ住宅普及促進協議会
- 7月6～7日 建災防：△監督者研修
- 7月 15日 建災防：△フルハーネス型安全帯使用作業特別教育
- 7月 16日 長住協：△JBN事務局会議
- 7月 28日 建災防：△安全パトロール
△安全懇談会
- 8月 3日 技士会：△準備講習会講師打合せ会
- 8月4～6日 建災防：△地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習会
- 8月 7日 犀協会：△正副会長あいさつ回り
建災防：△建設工事関係者連絡会議

会員動静

●代表者変更（市協会正会員）

(株)TOSYS 嗣 岩井 修 嗣 笠井 澄人

編集後記

今年もお盆が終わり、日に日に暑さも緩み、少しずつ過ごしやすくなった様な気がいたします。

さて、夏も終わりに近づき近年感じる事なのですが私の家は山手にあり、夏の時期になると時々カブトムシやクワガタが網戸に飛んで来る事がありました、ここ数年それら虫たちの姿を見かけないなあと感じる様になりました、その変わりにアリのエアコンの効いた家の中で見かける様になりました。最近の夏の暑さは厳しくて虫たちも暮らしやすい場所を探して引っ越しをしているのでしょうか。

まだまだ残暑厳しい毎日ではありますが体調管理に気を付けて残り少ない夏を楽しみたいと思います。

(青木信広)

ご意見・投稿をお待ちしています。

発行所 一般社団法人長野市建設業協会

<https://sikenkyo.sakura.ne.jp/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-224-3660 Fax026-228-6231

長野県建設業協会長野支部

<http://w2.avis.ne.jp/~nkn/>

長野市岡田町124-1 長水建設会館内

TEL026-227-6226 Fax026-228-6231

発行責任者 鹿熊 聡 川浦 俊樹

編集責任者 柳沢 昌宏

編集製作 長野経済新聞社

建設ながのNo.239 令和8年9月発行